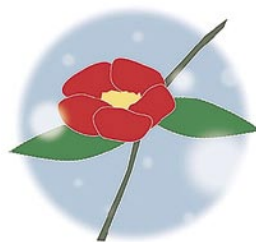


図書館 だより

No.71



2006.01

Fuji Women's University Library

世界を駆ける感染症 —鳥インフルエンザの脅威

食物栄養学科 傳法 公麿

「図書館だより」に執筆の依頼を受け、何を書こうかと少し考えた。迷わずこのテーマを取り上げることにした。大切なことなので、最後まで読んでくれることを期待する。

感染症についての概説

かつてわが国の病気といえば伝染病（感染症）が最も恐れられ、終戦後までは死亡原因の中心であった。しかし今では健康の状況は一変し、がんなど悪性新生物、心臓病、脳血管疾患等が病気の中心となっている。そして感染症は過去のものと考えられる人が増えている。

しかし実際はわが国においても感染症は姿を変えて、現代なりの新しい形の感染症が増えているだけで、その脅威は全く去っていないのである。近年、感染症に関する状況は大きく変化して、2つの姿で現れている。その一つはエボラ出血熱、エイズ、C型肝炎などが新たに人類の前に姿を現したもので、これを新興感染症という。もう一つ

は結核やマラリアのように人類が克服したと考えていたが、また現れてきたやっかいものを再興感染症という。しかもこれらが世界規模で発生するようになってきているのである。

わが国のように島国で隣国と離れているから、感染症は克服できたと考えてきた。しかしこれだけ交通が発達し、世界中を人々が往来し、物資が流通している中では、日本だけが感染症から免れることは出来ないのである。特にわが国の食料の60%が外国に依存しているのであるから、食料を通じて病原微生物が入っても全く不思議ではないのである。

最近わが国が脅威に曝された外国からの感染症が3つある。一つは3年前のSARS（重症急性呼吸器症候群）である。幸いにわが国では患者の発生はなかったが、これを契機に感染症法が改正され、平時からの対策を準備するようになった。その後においてこの疾患の新発生が無かったのは幸いである。次は最近のアメリカ旅行の帰国者で、米国滞在中に西ナイル熱ウイルスに感染し、帰国してから発症した例である。国境を越えて拡大する感染症を防ぐのは難しいという一例である。最後に、もうどうしても逃げられないのが、高病原

C O N T E N T S

世界を駆ける感染症—鳥インフルエンザの脅威・・・①
傳法 公麿

もう読みましたか？・・・・・・・・・・・・・・⑥
—ベストリーダーから—

図書館実習を終えて・・・・・・・・・・・・・・④
伊藤 奈絵 富松 直美

性鳥インフルエンザの感染の拡大である。先に厚生労働省は鳥のウイルスがヒトへ直接感染し、その変異したヒトのウイルスがヒトの間で感染拡大するのを恐れて、本年11月14日、新インフルエンザ対策の行動計画を発表した。

最近話題の感染症：高病原性鳥インフルエンザとは

今世界中を駆け巡り、いつなときでも我々の周辺で発生しても不思議でないのが、高病原性鳥インフルエンザなのである。この原因ウイルスはA（とくにH5N1）型が多いが、感染した鳥は神経症状（首曲がり、元気消失等）、呼吸器症状、消化器症状（下痢、食欲減退等）などの全身症状で死亡するので「高病原性」というのである。これまでの関心事は、鳥が大量死亡して養鶏業者が経済的損害を蒙り、一方では人々が鶏肉や鶏卵を食べられなくなるということであった。

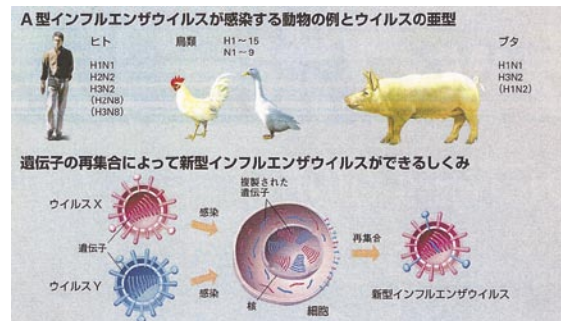
しかし今起きている状況はそんな悠長なことではない。元来インフルエンザウイルスは、感染の途中で突然変異が起こりやすく、ワクチンの型が違ふと効き目が悪いと言われてきた。またヒトに感染する新型ウイルス出現は、中国南部で家禽と豚と人が共存する生活環境の中で、鳥から豚に、その豚から人に感染が広がる中で生まれると考えられてきた。

ところが最近の鳥インフルエンザの研究から、次々と新事実が明らかとなった。今回の鳥インフルエンザの予兆は、1997年頃から東南アジアの片隅（香港）から始まった。わが国にも2003年1月に上陸し、感染拡大は山口、京都、大分などで起こったのは記憶にも新しく、今年も茨城県で集団発生している。いずれも養鶏が大量に死亡し、経済的な大打撃が問題となっている。また養鶏場周辺で、野生の鳥の死亡も観察されている。

鳥の感染例は2002～3年にドイツやアメリカ

でも感染は確認されており、さらに今年になってヨーロッパに拡大し、最近では台湾産の小鳥を通してイギリスにも上陸し、今では世界のどの地域でも起こりうるということが認識されるようになった。

問題は新型ウイルスの発生が従来の説のような（鳥→豚→人）とう経路だけではなく、鳥からヒトへの直接感染することで、不吉な前兆が注目されているのが、ベトナム、タイ、インドネシア、そしてとうとう中国でも鳥のウイルスがヒトに感染し、死亡者が出ているということなのである。



◀図はNewton: 25巻2号、2005年、p.75から引用した>

もしヒトからヒトへの感染拡大が起こるとしたら、人はそのウイルスに対する免疫力を持っていないので、最悪のシナリオでは感染者は世界人口（63億人）の20～30%、つまり20億人にも及び、世界中で2000万人を超える人が死亡するかもしれないと予測されている。これを受けて、世界銀行は全世界から急遽10億ドルの基金を集め、予防対策を立てようとしているのである。さらにわが国の推計では、最大で受診患者は2500万人、死亡者は16万7000人となっており、本当に他人ごとではないのである。

このような感染拡大は今始まったかのように見えるが、今となって分析すると、1918年から始まった有名なスペインかぜ、その後のソ連かぜ、そして1960年後半の香港かぜも鳥インフルエンザによることが分かってきた。過去のヒトのインフルエンザ流行は、全て鳥インフルエンザウイルスによることなのである。

なぜ、このような感染症が出現するのか

これらが出現してきた背景には病原微生物の側に原因があるというよりも、人間生活の環境要因が大きな役割を果たしているのである。地球上の生物は全てヒトと同様に、自分の生命を守るように出来ているものであり、歴史的にもそうした生命力を獲得した生物だけが苛酷な環境の中で生き延びてきたのである。何かで微生物を殺そうとすれば、それに抵抗力を獲得した微生物が新たに出てくるのは当然なのである。治療を目的に抗生物質を使用すると、薬剤耐性菌が生まれるのはその典型ともいえる。

鳥インフルエンザの拡大についていうと、茨城県の感染原因となるのは南米型のウイルスで、拡大の原因は南米産の不良なワクチンの不正利用が疑われている。これ以外にも新しい感染症発生の背景には、ヒトによる環境破壊や地球温暖化による生態系の変化、動物市場の存在にあるといわれている。特に鳥インフルエンザが同時多発的に発生したのは、家畜・家禽の大量飼育が関係しているというのである。

ヒトはどうやって対処すべきなのか

このように世界中に感染拡大をもたらしているのが渡り鳥のフンの中にあるウイルスらしいが、

渡り鳥を移動させないようにすることは出来ないということであれば、予防対策としては極めて限られてくる。ワクチンの開発が第一の選択であろうが、これには世界中の科学者の協力が必要で、少し時間とお金がかかることだろう。

今すぐに出来る予防対策として、先の新インフルエンザ対策では、都道府県毎にインフルエンザ治療薬（例えばタミフル）を備蓄しておく、人々の大規模集を制限し感染拡大を防ぐ、そして患者が発生した場合には強制入院を可能にすることをあげている。本当にこれくらい差し迫ったことなのであるが、人々の関心の低さが大変気になっている。

個人レベルで出来ることはインフルエンザに負けない抵抗力をつけておくことである。不幸にも死亡した人は幼若年者であったり、高齢者である。屈強な体力の持ち主は幸いにも死亡していないようである。普段からの自然抵抗性をつけておくことが大切である。

そして国際的には、人間の生活活動が新たな脅威を作っていることを考えて、地球規模で対策を作らなければならない。SARSに対するWHOの取組みのように、世界中の人々が正確な情報を共有して、感染拡大をさせないような社会を作らなければならない。地道ながらも、それが世界を駆け巡る感染症の被害を最小限に食い止める方法なのである。

図書館所蔵の関連図書

「感染症とたたかう：インフルエンザとSARS」岡田晴恵，田代真人著
岩波書店，2003年 <本館 493.8||O38>

「微生物 vs. 人類：感染症とどう戦うか」/ 加藤延夫著 講談社，2005年 <本館 493.8||Ka86>

「史上最悪のインフルエンザ：忘れられたパンデミック」アルフレッド・W・クロスビー〔著〕；西村秀一訳
みすず書房，2004年 <花川館 493.8||C93>

「人類vs感染症」岡田晴恵著 岩波書店，2004年 <花川館 493.8||O38>

「図書館実習を終えて」

今年度、図書館では2名の図書館実習生を受入れました。2名とも本学の図書館情報学課程の受講生です。おふたりに実習を終えた感想を書いていただきました。

人間生活学科 3年 伊藤 奈絵

9月12日から16日までの5日間、藤女子大学図書館で実習をさせていただきました。2年生の秋から図書館アルバイトをさせていただいており、貸出・返却・排架・書架整齊の作業は行っていますが、その他の仕事内容については全くわかりません。そこで、いつも職員の方々はどのような仕事をなさっているのか知りたいと思い、実習に臨みました。

実習1日目、2日目、3日目は事務室での事務作業。私は花川館の学生なので、本館は図書館情報学課程の授業を受講する土曜日のみ通っています。そのため、図書館とは別に事務室があることを知らず、実習に入った後で知ることになりました。こちらで、図書や雑誌が図書館に入り、利用者の手に渡るまでの作業を行っていました。

図書や雑誌の選書、受入、発注。目録の作成。製本。授業で習っているものもありましたが、実際に見たり、実践したりすることはもちろん初めてで毎日次は何をするのか、楽しみに実習を行っていました。

初日は、午前中に5日間の実習についてのオリエンテーションと藤女子大学図書館の歴史について。また、大学図書館の現状とこれからの課題について学びました。大学図書館は年々利用者と貸出冊数が減っているそうで、改善策は何かないだろうか。と話されていました。午後は図書館システムの概要説明と、実際に作業の操作を行いました。

実習2日目は、図書の選書、受入。図書を選ぶところから、実際に書籍の発注、届いてからの納

品、登録と図書の手続きについてです。私たちが実際に購入希望をした図書が、どのように決められ、大学に届き、



図書館の棚に並ぶのか。その流れを知ることが出来ました。午後にはその届いた本の分類と目録作成を行いました。本の背表紙についている、シールを作成するために行う作業です。

実習3日目は、2日目に目録をつけた図書の装備を行いました。これが出来て初めて図書館の本棚に並べられます。午後は雑誌の選書、受入を行いました。雑誌は図書のようにコンピューターで読み出すバーコードをつけることがなく装備も行わないため、簡単な作業だと考えていたが、そのようなことはなく、図書と同じように作業は行われます。

実習4日目は、カウンターでの仕事。利用者への一連のサービス内容を実際に行いました。貸出や返却はアルバイトで実際に行っていますが、アルバイトでは知ることの無い、予約の仕方、本館と花川館の資料の行き交いについて知ることが出来ました。午後からは参考調査のカウンターで、実際にどのような調査依頼が来ているのか、またどのように調べているのかを教えてくださいました。本当に様々な分野の質問、調査があり、図書館員は広い視野と多くの知識が必要であることを改めて知らされました。

実習5日目は花川館での実習。図書館内の見学と業務について説明を受け、午後は5日間の実習のまとめを行い、実習は終了しました。

ずっと知りたいと考えていた図書館の仕事の一

連の流れを知ることが出来、また利用者が図書館に来て知りたい情報を伝えて満足していただくには、図書館と他の施設とのネットワークや図書館員自身の広い知識が必要なのだと感じました。

実習をしていく中で、職員の方から利用者が増えていくと、声がよく耳にし、どうすれば利用するのか、何か言い考えはないだろうか。と質問をされました。私はそのとき、何と応えてよいか分かりませんでした。個人的な意見としては、毎日のように利用しているため、意見が出せなかったというのも、理由の一つに挙げられます。本を読むことが好きなので、頻りに図書館に行つては本を物色しています。新刊も定期的に入荷されているので、チェックもします。また、AV資料がとても充実しているので、DVDを見るために利用する事もあります。図書もAV資料も、本館から花川館へ、花川館から本館への資料の取り寄せも出来ます。とても充実したサービスがあるにも関わらず、利用しないのはもったいないです。

図書館実習を行ったことで、アルバイトで行っている事以外の仕事を知る事ができました。特に事務室での作業は、初めて見るものばかりで興味を持ちました。何気なく利用している図書や雑誌がどのような工程を経て棚に並んでいるのか学ぶ事ができ、貴重な作業を経験させていただきました。

日本語・日本文学科 3年 富松 直美

藤女子大学図書館で実習を5日間行いました。実習では藤女子大学図書館の歴史説明から、図書の分類や目録、整備などの図書館に資料が並ぶまでの作業、資料カウンターでの業務、検索方法など、様々なことを教わりました。

今回の実習で初めて知ったことは、除籍の方法（雑誌にはAランク～Dランクのようにランク

付けがされていてBランクから除籍作業を行う）、藤女子大学図書館の資料に関する具体的な数（月に700冊程度購入している、など）などです。選書委員会というのが開かれていて、そこで選書をしている、というのも初めて知りました。

また授業などで知っていた作業をすることもありました。しかし実際に行うと実は詳しくはわかっていなかったこともあったので、大変勉強になりました。分類を実際につけてみて、著者記号などのつけ方もわかるようになりました。また、花川館には行ったことがなかったのですが、今回本館、花川館の両方に行くことによって大学図書館の専門性も見えてきました。普段使っている資料検索のシステムも実習で教わり、実は詳しくわかっていなかったと実感しました。検索方法は図書司書の勉強としてはもちろん資料を使う学生としても大変勉強になったと思います。

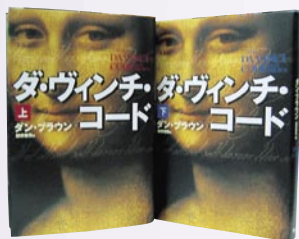
興味深かった点は、他の図書館との関わりを数多く持っていたことです。もちろん近場の大学との相互サービス利用のことは知っていましたが、大学図書館という専門的な図書館だけにそれ以外とはあまり交流がないと思っていました。今回、藤女子大学図書館に資料がない時には他大学、必要な時には海外にまで連絡をとって資料請求をしているというのを知って、図書館のネットワークの広さを実感しました。

実習をして図書司書の仕事全てを理解した、ということとは言えませんが、一連の作業の流れが理解できたと思います。また、藤女子大学でも図書館に来る人の数が減ってきている、など図書館の現状の話を聞いて図書館のこれからの課題を考える機会にもなりました。5日間という短い期間ではありましたが、大変充実した実習であったと思います。



もう読みましたか？ —ベストリーダーから—

昨年1年間で、図書館で貸出が多かった資料（ベストリーダー）から5タイトルを紹介します。いつも貸出中で、本棚に並んでいることが少ないため、「え？こんな本、図書館にあったの？」と思う方もいるかもしれませんね。まだ読んでいない方は、ぜひ、予約をしてみてくださいはいかがですか？



ダ・ヴィンチ・コード 上・下

ダン・ブラウン著；
越前敏弥訳 角川書店，2004年
<本館 A933.5||B77||1~2>

ルーヴル美術館長ソニエールが死体で発見される。殺害当夜、館長

と会う約束をしていたハーヴァード大教授ラングドンは、フランス警察より捜査協力を求められる。

その死体は、ダ・ヴィンチの最も有名な素描を模した形で横たわっていた…。館長の孫娘でもあり、現場に駆けつけてきた暗号解読官ソフィーは、一目で祖父が自分だけに分かる暗号を残していることに気付く…。



ハリー・ポッターと 不死鳥の騎士団 上・下

J.K. ローリング作；
松岡佑子訳 静山社，
2004年

<花川館 933.9||R78||1~2>

シリーズ第5弾。復活したヴォルデモートとの戦いはいつ始まるのか？ 吸魂鬼に襲われ、「不死鳥の騎士団」に助け出されたハリーは、騎士団が重大な秘密を守っていることを知る。その秘密とは？十五年前になにが起こったのか？ いよいよ真実が明かされる。



東京タワー:オカンと ボクと、時々、オトナ

リリー・フランキー著
扶桑社，2005年
<本館 913.6||R47>

母親とは？家族とは？そんな普遍的なテーマを熱く、リアルに語る著者初の長編小説。



天使の梯子

村山由佳著 集英社，
2004年
<本館 913.6||Mu62>

小説すばる新人賞受賞作「天使の卵」の続編。10年が経ち、29歳になった歩太・夏姫が再び繰り広げるせつない恋物語。



ユージニア

恩田陸著 角川書店，
2005年
<花川館 913.6||O65>

ある男の遺書によって解決をみたくはしない事件。町の記憶の底に埋もれた大量殺人事件が、年月を経て様々な証言によって暴かれてゆく。真実を話しているのは誰なのか？

／編／集／後／記／

今回もなんとか締切に間に合わせることができました。編集でバタバタしていたら、あっという間に2006年!! 最近、月日が流れるのが早いわ～。この前の成年には何をしていたかしら？みなさん、思い出せます？え!?まだ小学生だった??!!・・・あ、そうですか…。何はともあれ、今年も実りある1年でありますように。そして、図書館がそのために少しでもお役に立てますことを祈っています。今年もよろしくお祈りします。

藤女子大学 図書館だより 第71号 2006.01

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<http://library.fujijoshi.ac.jp/index.html>